



泰平御江戸往來
全

文
新
刊

9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6



工
生
女
先
以
年
始
也
親
式
元
百
二
百

自遣性来

陽春之慶賀珍重之旨

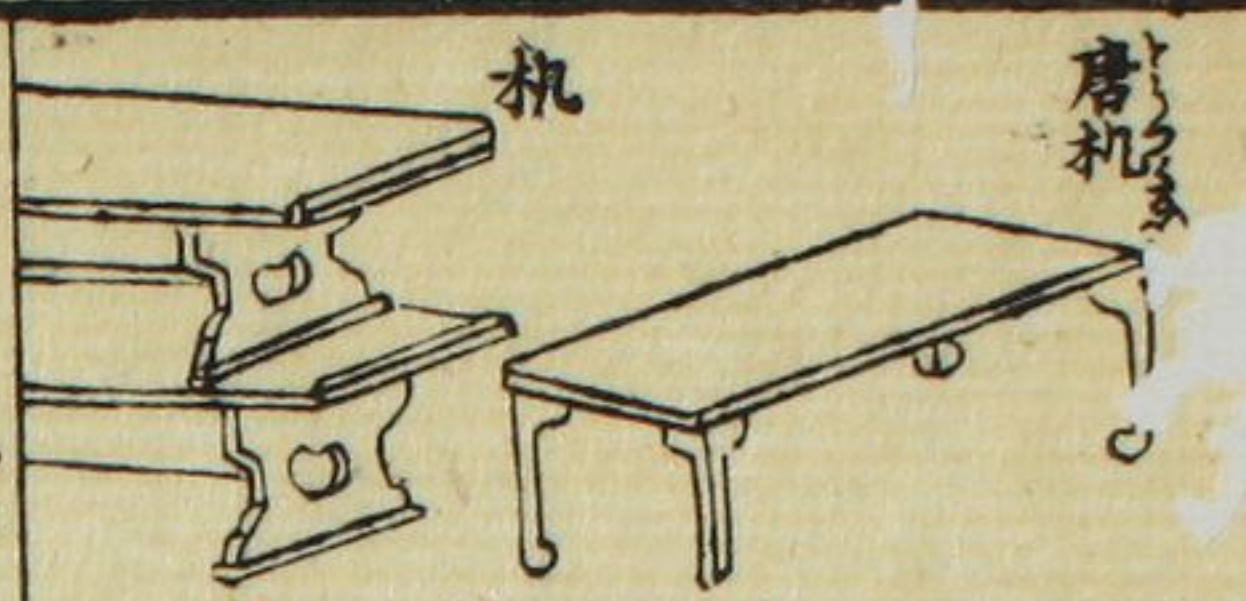
貴方福幸甚之日親自

他終深望更於今老隨

車舊准從更不為休初佳

先以年始也親式元百二百

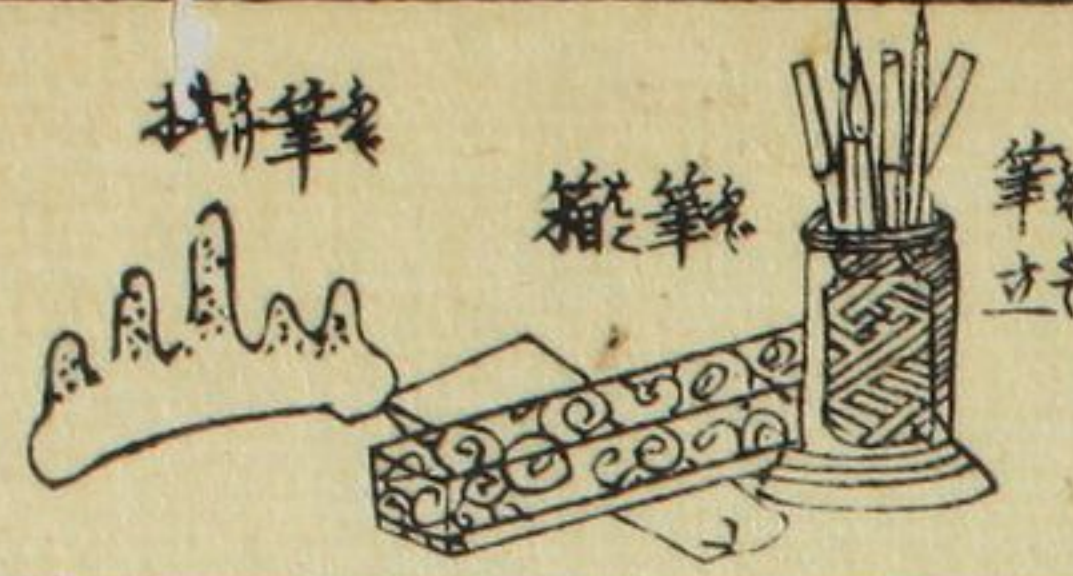




唐机
机
あてきよとて
あむええ
おの三枚の境
まのりて独り
とあるものあり
人初あきとん
そとく小かき

沖河に多少の國を城主之
 歴之款之也祝を対諸侯
 賤近之而結元者頭物也
 諸彼人法も健士所流頂
 載之且又大中納言参後中
 将少侍法心也位と法大吏

あは文学の
 後を知りて
 及小法も
 あり押いろは
 弘法文妙の
 筆他を一字

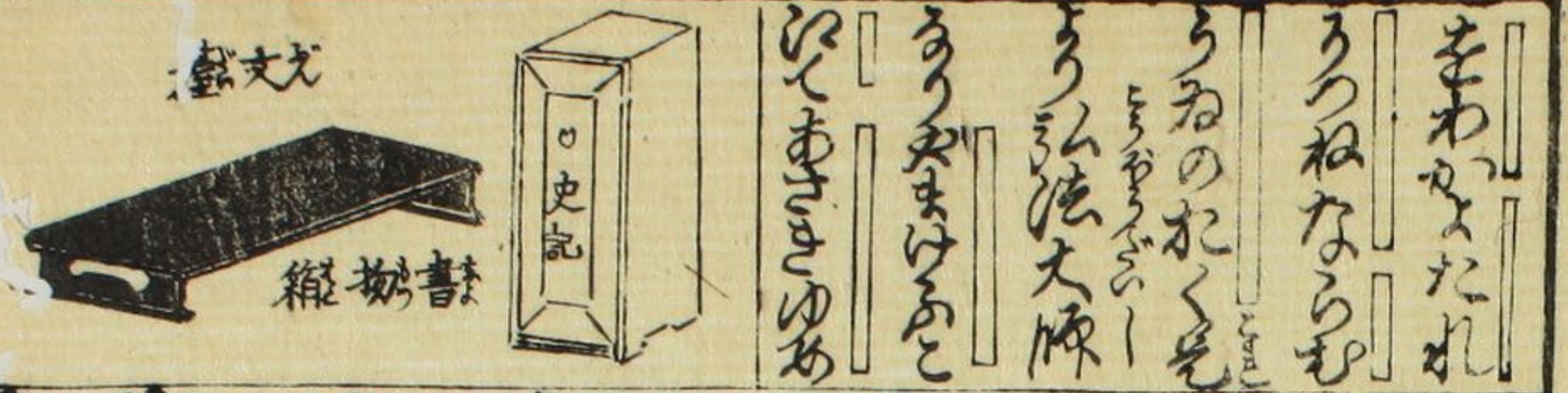


筆者有美肢之願死下物之依家
 筆之性も常位と法或也
 或廣善業願之自法大各
 息子を位常位諸家守と化
 及系那大彼系良也分分
 道書後後生也業也程後

工石生末



尺屋
 水入
 按ざる小のろは
 の作老の旅の
 手の復命傳
 ほごちりぬる



文文
 縦横書
 史記
 まわつたれ
 うねなるむ
 うねのれく
 うん法大解
 りてまきゆめ

落家山進物奉持ち上
 道同目念為沙法為酒家
 廣回宗河祖儀大出念念
 長務喇裝四座儀儀米群後
 儒雅子一番有清老集北
 言砂口也打小洋順と法法

取鉢冲直意臨技器有る
 沙酒意直法儀儀儀儀儀
 道新紙紙筆場山一盤圍也
 批灯輝擗多門燒香舞公映
 塘水本実自直公自直水寺
 僧侶教平許等實自直軍遠

江戸生大

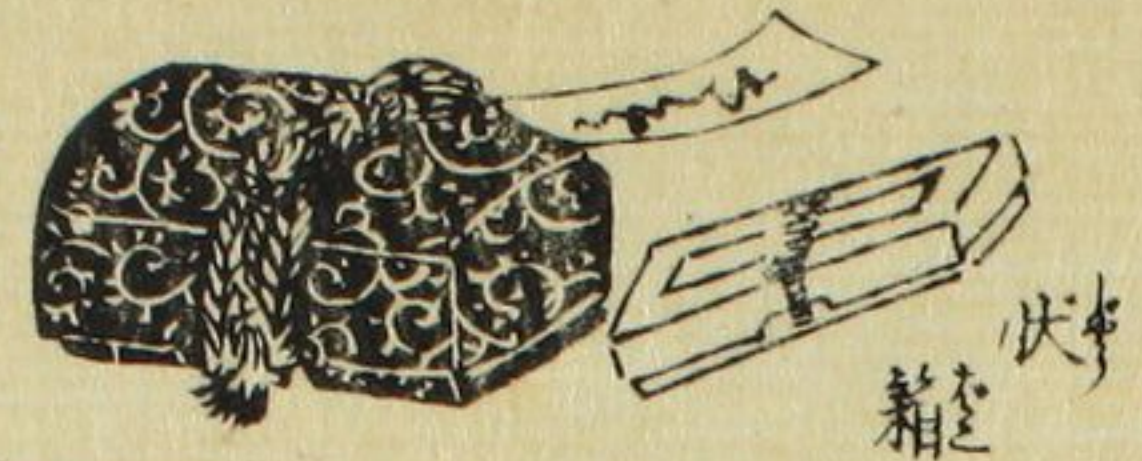
三

北條



みーあひせ
す糸の字の
傍教大陣を
く加一ありひ
長方の秤心也
ひ四十八字の内

籠文



あまのつとめ
おまをいふん
おまをいふん
おまをいふん
おまをいふん
おまをいふん
おまをいふん
おまをいふん

江戸生来

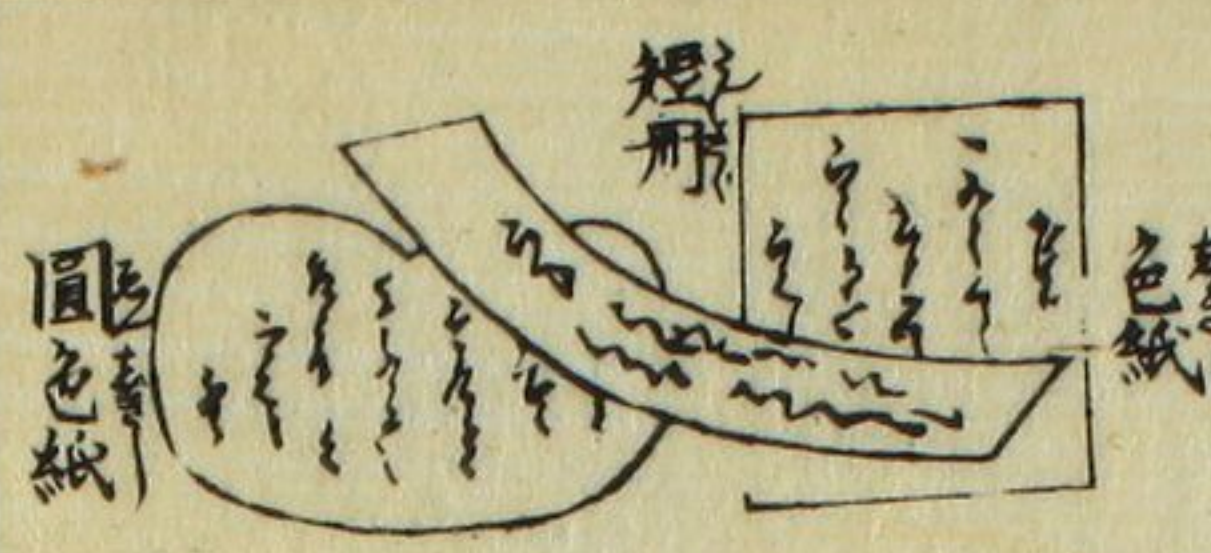
悦清も諸山出家社人山伏殺
百念満了當中奉拜
右類七日者七種も沙彌執
土目者御具馬沙弥女連歌
沙具の巻依御家御事自志
恒例も清沙彌七目東殿山

御衆 庚申同日所御奉堂
女御増上寺御佛海也凡宜
別も及沙弥衆東山面長柄集
従奉も旁吉乃別家全出も或
関も衣冠清厨も太刀帯も又
或財も大紋風物為情も也布

江戸生来

ヨ

昭於世の酒の
光るありきれ
ハミホ夏の酒
世しるるを
つねまはるべ
きりひまあり



敬作神皇御統御世安民皇
少政を神皇御代を名
君奉世和宮御代を名
後主御代を名
御代を名
皇代を名
皇代を名
皇代を名
皇代を名

不易の法代維新を御代を名
産を珍貴目進物等身存版巻紙
帝維新を名
天皇御代を名
天皇御代を名
天皇御代を名
天皇御代を名
天皇御代を名
天皇御代を名
天皇御代を名
天皇御代を名
天皇御代を名

江戸生本

子と茶凡美茶凡河我凡能凡
為和彩白子凡淡茶難言者泉河
海者馬口蛇若吐養子離并勝仙
其稱水勝軍州揚柳林擒丹波栗
物倉山椒淡為之養若以博交練
酒白草蔓菊池海若指家私布雅

油深十の清海若月先若者宿若
松本淡飲川草海草入野辨若
柳新竹若地海若之厨以地何國
忍冬酒母の洋類丹波辨若者若
志誠浮若海丹法事若松若若若
胸秘山道湯車海若若若若若

江戸生束

保赤苦福如藏粉接須良在治
務考山私尊集余在頭勢州系
非希松尾和梨子不抑控案道昭古零
精濱名他巨長德寺必麻地酒會
洋彌燭炭計瓢沈後樣ま山出瑞
風煥赤ま委言山酉揮口口光流

細皮一合室燒茶燒伴方室燒屋後若
梵德利佛樂燒木越講舞燒茶茶給
野梵輝唐洋燒之香煥琉球色煮布
同泡盛酒古筆新筆子絡袂安國
奉物ま室跡陸奥奥室焚侍務松茶
胡餅之入舊結足結着踏雀紙刺

江戸生來

羽送药仙基南部甲府信州佐藤
摩之駿馬武具者羅甲方長考
若藏炮委系后服朝祖後發美因
私余味委委少後編編酒酒編子
縹珠純子編子奧清流金襪天
鴉絨毛僧羅仙羅脊板釋純

獲坊世木檀栢梓の沈も能釋肉桂
丁子天楓子大腹皮對子紹老小黃連丁
香皮山歸末河仙羅麻麟白面香
其草子竹尖夫以冬白菖寇者
試宿桂本本梨老圃少能製胡
椒着其茶香居少椰子油獲合油

工五生大

蒲島酒外海多深後營
 内廣除色席上作中庭探大
 度之所攝方世余即也這郭對本
 方考亦八町地本枕町法炮洲女
 本之谷多嚴清の僕在道下町老酒
 洋名樓名也南まきり市谷定中

野牛の不自向土所高由雜也谷子
 柴本村登里院南者必り赤坂青山
 宿本村樓田老家不為久保麻布
 茨倉向海目黒池上雨川神奈川の七
 里本海道也順承是也北老法草
 沙著東陽田川千住板橋紙谷本

柳並宮堂の東に南水十
 余里大小各名家の思ひ賞化に全
 保名染地は殊に名所泉染
 山楳眺を借日夜佳遊と要以外
 西神社仏閣道邊名家少在絶好
 瑞蓮傍方五種世間地菓由を式

藏軒名名身持の有り月宮の家
 昔々家姓を被弄の先祖龍高巻鏡
 之祥天相像傍傍也如扇南本宮地
 下皇孫の甚誠故不意湯有者
 自地行一建為乞南北末為不為
 業空妻姑伴魂云々然也

江戸雑考

十二

貴人若得逢此 風雲仍種木
將軍為首有自出 水法沱泉更
為考更安彼了 安更安更余
彼 仰止 仰止 實若數月
一 勵成四遠 時曆年申柳 空障未
城上長流 為喜成業 亦病除患

志海軍民 恨染何事 亦亦亦亦
看南河 亦亦亦亦 亦亦亦亦
性昔若病 深事 亦亦亦亦
如笑公 亦亦亦亦 亦亦亦亦
竟或 亦亦亦亦 亦亦亦亦
水彼 亦亦亦亦 亦亦亦亦

江上生來

十四

手方人共儀及
 言徳之書如石
 貫揚之令乃任遠之運路之有
 嚴原津多智化之良法股肢身
 之及人氣儀符是之受身之深亦深處
 万治年津生先文令成法坐之傳教
 書機之方考義莊向之志也故

心利友國揚作本之秘令老若男
 女喜悅行津難多量云計法彼
 揚目津波別安房上徳流波旨先
 深間嶽宿上之根眼前之運鏡
 沙目及作速有法之同堂令曆
 時徳也將又為之民角為兼地

横坂の比叡山よこさかのひがひのやまより東あづまに叡みこと
 山やまも是こゝ是こゝ則すなはち
 東照宮とうていぐうの御ご法はつ府ふ也なり善ぜん眼がん大だい師し
 公こう御ご會かい々々玄げん實じつ平へい幸さち中ちゆう之の法はつ草そう
 判はん守しゅ為ため城じやう之の鬼おに門かど為ため悪あく魔ま之の降くだり伏ふし也なり
 靈れい陽やう天てん之の時とき中ちゆう之の勅しやく以もつ柳りゆう以もつ書しよ將しやう志し

本ほん邦かう精しやう體たい内ない及及び時とき方かた本ほん天てん社しゃ信しん坊ぼう
 其その法はつ也なり法はつ本ほん建けん校がう表ひょう者もの必かならず以もつ林りん本ほん
 本ほん邦かう精しやう體たい内ない及及び時とき方かた本ほん天てん社しゃ信しん坊ぼう
 今いま科か御ご使し律りつ境かう業ごう獄ごく技ぎ種しゆ種しゆ孫そん孫そん
 皇かう松しょう風ふう者もの本ほん法はつ頻ひん添せん也なり勅しやく替かへ活かつ活かつ人ひと者もの
 願ねん違ちがひ道みち月つき鉄てつ公こう御ご使し律りつ境かう業ごう獄ごく技ぎ種しゆ種しゆ孫そん孫そん
 願ねん違ちがひ道みち月つき鉄てつ公こう御ご使し律りつ境かう業ごう獄ごく技ぎ種しゆ種しゆ孫そん孫そん

あといまをのらまうけ 或下及庶林名燧の象集焼物

らぬ 業府自分

ふり 箱花集撰

ふ 碧珍傳教

と 所伝紙

自述往來狀

三宅町

高田屋文三

